



# IoT活用推進モデル事業（神奈川県内広域水道企業団）



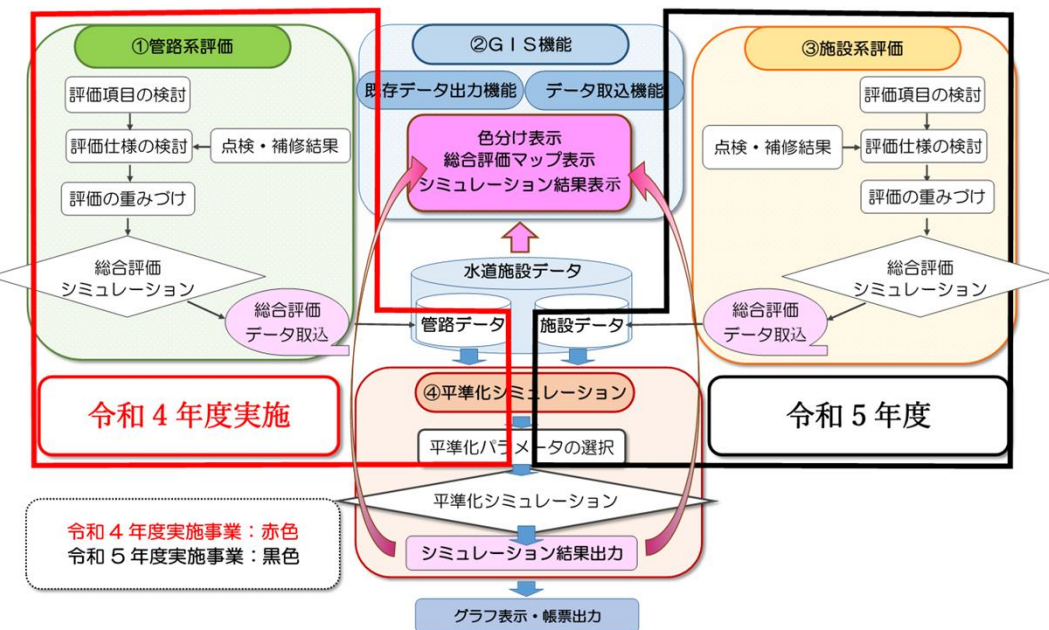
- 施設の維持管理業務の効率化とアセットマネジメントの実践を目的として導入した施設管理システムを改造し、令和4年度から2ヶ年の計画でアセットマネジメント機能を追加する。
- 当該機能を活用し**最新の施設状態と施設の重要度に基づいたアセットマネジメントを実践**することで、施設のライフサイクルコスト（LCC）を低減させ、限られた資金を適切に投資して、将来の料金の値上げ幅を抑えることを目的とする。

## 事業概要・事業の進捗状況

- 事業期間：令和4年度～令和5年度
- 事業実施状況
  - ◇令和4年度：管路系アセットマネジメント機能構築
  - ◇令和5年度：施設系アセットマネジメント機能構築（予定）

## 導入状況・設置状況

- 施設管理システムに管路系アセットマネジメント機能を構築。



## 付加効果

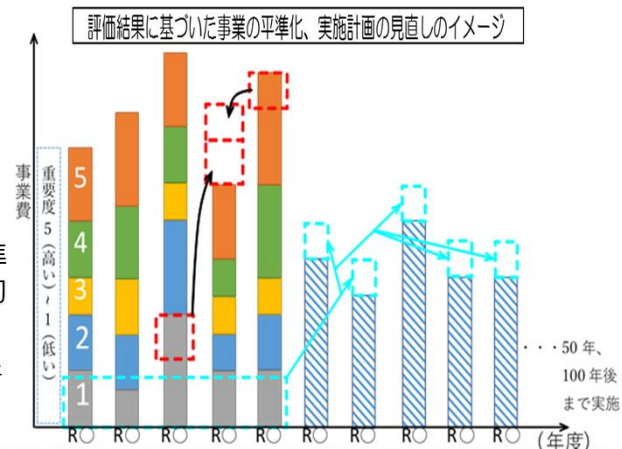
- 構築した管路のアセット機能を活用して令和5年度より仮運用を開始する。手始めとして、管路に関して、最新の施設状態と施設の重要度に基づいた総合評価シミュレーション結果から、事業費平準化シミュレーション機能により「**重要度・優先度を踏まえた更新投資の平準化**」を着実に図る。

## 業務の効率化

- 令和4年度の管路系に引き続き、令和5年度に施設系のアセットマネジメント機能を構築し、令和6年度より本運用を開始する。運用開始後は、業務の効率化に向けて以下の**効果の発現を注視**していく。
  - ◆健全度（劣化度）評価に基づいた**点検方法・周期の最適化**が図れる
  - ◆事業費の平準化及び施設更新・修繕計画の効率化を同時並行で進めることにより、施設全体のLCCを低減し総コストを抑制することが可能となり、**優先度の高い事業へ効率的な投資**することが出来る
  - ◆点検や委託の結果が健全度（劣化度）評価に自動で反映され、最新の施設状態と施設の重要度に基づいた「**工事計画作成**」及び「**中長期に渡る事業費のシミュレーション、更新需要の見通しの把握**」がシステム上で容易に可能となる
  - ◆今まで特定の担当者が行っていた将来の工事計画等に関する業務について**システムを活用して容易に実施**できるようにすることで、**業務を標準化し、属人化を防ぐ**ことが出来る

## 他事業者へ共有すべき事項

- ◆**本機能の特色**
  - ◆現状の健全度（劣化度）評価に加え、新たに施設の重要度評価を掛け合わせて事業の優先順位付けをシステム上で実施
  - ◆優先順位の結果から事業の平準化や事業計画の見直しを自動的に実施
  - ◆職員の点検や委託・修繕の結果をアセットマネジメントに自動的に反映させる



## 問合せ先

神奈川県内広域水道企業団 浄水部 浄水課 維持保全係  
TEL:045- 363- 1111 / Email: sh.ijihozen@kwsa.or.jp